

## 脳死移植のドナー候補となる患者の転送が可能な状態か否 かの判定基準

令和 4 年 4 月  
日本集中治療医学会

### はじめに

臓器提供を目的とした脳死移植のドナー候補となる患者転送においては、通常の重症患者の搬送時よりも急変のリスクが高い。そのため搬送に先立って、十分な全身状態の評価を行い、搬送手順の確認、医療者間の情報共有、そして何よりご家族の理解・同意が得られていることが重要である。臓器提供が目的の転送可否の判定に際しては、個々の患者の状態に応じて症例ごとに主治医で判断せざるを得ないと思われるため、転送に際しての目標値は呼吸循環動態のみの簡素なものとした。搬送に関しては、別に本学会で作成した「集中治療を要する重症患者の搬送に係る指針」（資料 2）を参照されたい。

### 判定基準

□ 転送に際しては以下の目標値を満たすことが望ましい

・呼吸

最高気道内圧  $\leq 30$  cmH<sub>2</sub>O

PaO<sub>2</sub>/FiO<sub>2</sub>  $\geq 250$  mmHg

・循環

収縮期動脈圧

13 歳以上  $\geq 90$  mmHg

1 歳以上 13 歳未満  $\geq (\text{年齢} \times 2) + 65$  mmHg

1 歳未満  $\geq 65$  mmHg

大量のカテコラミンが使用されていない

\*脳死とされうる状態における上記以外の全身管理指標は患者毎に微妙に異なるため、本基準では上記のみの目標値とした。

\*家族が患者の状態及び搬送中の急変の可能性について十分理解していることが必要である。

\*転送可否は個々の患者の状態に応じて主治医が判断する。